2024 年 3 月 20 日
HIS 研究会

2024 年 3 月 11 日 HIS 研究会 開催報告

開催日時	2024 年 3 月 11 日（月） 18:00-20:00
会場	法政大学 市ヶ谷田町校舎 T312 教室
参加人数	計 20 名 会 場 ：16 名 （会員：16 名、非会員：0 名） オンライン： 4 名 （会員： 2 名、非会員：2 名）
講演者	麻布大学 生命・環境科学部 教授 江口 祐輔 氏
テーマ	動物行動学からわかる動物が見ている世界と 住民が主体となった農作物被害対策の仕組み

麻布大学の江口教授を講師に迎え、「動物行動学からわかる動物が見ている世界と住民が主体となった農作物被害対策の仕組み」についての講演と参加者とのディスカッションが行いました。

ご講演では、日本の鳥獣害対策は、動物のエサになり、動物を引き寄せる放任果樹や放棄竹林などを人里や田畑近くに放置したまま、捕獲で対象動物の数を減らそうとする手法が主流であり、その手法では根本解決には繋がらないこと、効果が限定的であるとのご説明がありました。

また、地域の環境を考慮した総合的な対策が必要であり、動物の思考、置かれた状況を加味した、動物が見ているいわゆる”環世界”から環境や人間との関わりを見ることが大切で、農作物被害対策に動物視点を活用すべきとの示唆がありました。

さらに、地域資源を活用した地域振興やジビエ利用の可能性も触れ、地域社会との連携が農作物被害対策において重要であることが示されました。

質疑応答では、動物行動学の日本における状況や課題について議論が行われ、農作物被害対策は、ものづくり、人材育成、食育などに絡んで社会の中で縦横無尽のつながりを生むというご説明があり、情報システム学との共通点に関する議論でも盛り上がりました。

【アンケート結果】

講演の満足度：大変満足(64.3%)+満足（35.7%）=100%

コメント(抜粋)：

・一つの改善の仕組み（情報システム）として、アナロジーしやすい刺激的な内容でした。

・人間中心の情報システムを超えて、動物の視点から見た「システム」(広く社会システムとして)について考えさせられました。

【会場の様子】